

『ナレッジ・マネジメント研究年報』執筆要項

1. 原稿は日本語または英語とする。原稿はPCワープロソフトのワードで作成すること。書式はA4版横書きとし、文字サイズは、11ポイントとする（注・参考文献等は9ポイント）。表紙を除く原稿の全ページについて、ページ番号を連続して打つ。日本語原稿の場合、ページ設定は40字×32行とする。
2. 原稿はPCワープロソフトのワードで保存したUSBまたは、CD-ROMで1部（使用機種および使用ソフトのバージョンを明記）、ハードコピーで3部提出する。
3. 原稿は、表紙、要旨、本文（図表含）、謝辞、注、参考文献の順で構成する。
4. 表紙ページには次の内容を記載する。
 - ① 表題（日本語原稿の場合は、日本語と英語の両方）
 - ② 執筆者の名前、所属（日本語と英語の両方）
 - ③ 連絡先住所、電話番号、Eメールアドレス
 - ④ キーワード(5つ)
5. 日本語文および英語文原稿では、表紙ページの次の2ページ目に英語文要旨（300語以内）を作成する。なお、英語文については、事前にネイティブチェックを受けておくこととする。
6. 本文は、3ページ目から執筆する。本文の冒頭には、表題を書くこと。執筆者の名前や所属等は、書いてはならない。英文要旨、本文、図表、謝辞、注、参考文献を含めた原稿の分量は原則として日本語原稿で16500字以内（1ページ=40字×32行で、年報刷り上がり14ページ以内）、英文原稿で6500語以内（ダブルスペース、全てを含み年報刷り上がり14ページ以内）とする。（年報刷り上がり1ページは日本語原稿で1200字以内を換算の目安とする。）

なお、図表は下記の要領で原稿字数に換算して全ての年報刷り上がりを14ページ以内とする。

 - ・刷り上がり2分の1ページ大の図表：19行×44字=836字
 - ・刷り上がり3分の1ページ大の図表：15行×44字=660字

（いずれもタイトル1行と注記1行を含む）
7. 図表は「図」（英語では“Figure”）と「表」（同“Table”）とに分け、それぞれ通し番号と標題を付け、本文中に挿入する。なお、表の中に使用する文字に限り、文字サイズは9ポイント以上とする。図表等には、出所を明記し、必要な場合注釈を付ける。

<例：日本語>図1 日本企業の知的財産権組織 <例：英語>Figure 2 R&D Productivity
<例：日本語>表3 川崎重工業の事業部門 <例：英語>Table 5 U.S. Oil Price
8. 英字および2桁以上の数字は原則として半角で打つ。数式、数値の記述は通常のシンボルを利用し、特別なシンボルは利用しない。なお、数式等については、一般の専門誌に利用される通常の約束事をこの原稿にも適用する。日本語原稿については、読点は「、」、句点は「。」を全角で打つ。但し、本文中の（ ）内と日本語参考文献については「, 」と「.」を使用する。
9. コメント、助言、研究資金等への謝辞、または報告全体に係わる注で後注とするには適当で

ないものは、本文の後、注の前に謝辞として、スタリスク(*)をつけて配置する。

10. 本文に関する注は本文の後に配置する後注の形式をとり、下記のスタイルをとる。注番号は算用数字で連続して付ける。

<例>

【注】

- 1 本章の記述のうち、最近のアメリカにおける制度の変更について、尾崎英男氏の示唆を受けた。
- 2 詳細の解説については、たとえば尾崎英男（1991）『日本企業のための米国特許紛争対応ガイドブック』日本機械輸出組合、を参照。
- 3 ヘンリー幸田（1992）『日米特許紛争スーパーマニュアル』発明協会、63 ページ。
- 4 尾崎英男、前掲書、85-86 ページ。

11. 参考文献は正確に記載し、例示するようなスタイルとする。日本語文献と外国語文献は分けずにABC順とし、英語以外の外国語文献も英語文献に準じて記載する。外国語の書籍や雑誌名については斜体とする。

<例>

Bacharach, S. B. and M. Aiken (1976) "Structural and Process Constraints on Influence in Organizations: A Level Specific Analysis," *Administrative Science Quarterly*, December, Vol.21, No.4, pp.623-642.

Holton III, E. F. and Baldwin, T. T. Edit. (2003) *Improving Learning Transfer in Organizations*, NJ: John Wiley & Sons, Inc.

児玉文男(1990)「知的所有権部の戦略 4 新日本製鐵株式会社 知的財産部」『発明』第 87 巻第 5 号, 発明協会, 44-76 ページ。

Nonaka, I. and H. Takeuchi (1995) *The Knowledge Creating Company*, New York: Oxford University Press. (野中郁次郎・竹内弘高, 梅本勝博訳 (1996)『知識創造企業』東洋経済新報社)

Posner Barry (1987) "What Takes to be a Good Project Manager," *Project Management Journal*, March, Vol.34, No.1, pp.123-145.

高橋明夫(1983)『日立の特許管理: 企業の未来を拓く特許とその戦略的活用』発明協会, 153-156 ページ。

Thamhain, H. J. and D. L. Wilemon (1986) "Criteria for Controlling Projects According to Plan," *Project Management Journal*, June. Vol.53, No.2, pp.75-96.